

自己点検・自己評価の公表について

学校法人 名古屋大原学園

1. 当学園における自己点検・自己評価の取り組みについて

専修学校における自己点検・自己評価は、平成19年に学校教育法及び同施行規則の改正により義務付けられることとなりましたが、本学園におきましては従前より独自の方法で評価点検とその改善に努めてまいりました。

平成27年度においても、より同法に則った項目で点検・評価を実施しましたので、ここにその結果を公表いたします。本学園における教育の現状を正しくご理解いただき、より一層のご支援を頂ければ、幸甚に存じます。

なお、自己点検・自己評価の詳細につきましては、本学園各地区各学校HP上で学校関係者評価報告書とともに自己点検・自己評価の総括表を公表するとともに、各学校内で詳細報告書を公開しています。閲覧ご希望の方は、日時をご予約のうえご来校ください。

2. 平成28年度自己点検・自己評価の結果について

本学園の教育理念を念頭に置き、分野ごとに行う専門教育を通じ、教育基本法に謳う“人格の完成”を目指し、“社会の形成者”として必要な資質を備えた身心ともに健全な学生を育成するため、すべての業務に誠意と情熱をもって対応します。

(1) 教育理念・目標

本学園では、学園の基本運営方針・教育目標・学園スローガンを定め、事業計画書等で明確に公表するとともに、職員総会ははじめ定期的に確認・点検できる場を設けています。

専門課程の目標：早期大人化教育、資格試験・公務員試験など専門教育の充実

(2) 教育活動

本学園では、変化の激しい社会ニーズに応えるため、毎年個別委員会を設置し、各事業年度の重点項目を定め、時代に即応した実践的な教育を展開できること、将来へ向けての準備を怠らないことに重点を置き、各テーマに取り組んでいます。

各校各学科とも、それぞれの分野からの人材ニーズを適切に把握し、目標人材像を定め、それに応じたカリキュラム等教育計画全体を定期的に見直しています。

教育現場においては、資格教育に留まらず、「自己管理能力」「協調行動力」など職業現場で必要とされる能力の開発など、産学連携の職業教育にも注力しています。

(3) 学生支援と教育成果

本学園は、全国展開する大原グループの一員として、授業カリキュラムから就職指導に至るまで、総合グループ校の特徴を生かすことにより、良質の教材の提供・高度な職員のスキル・全国を網羅する求人網等、学生の満足度の高い学校を実現しています。

各校ともクラス担任制で運用することにより、学生本人だけでなく父兄・出身校とも連携をしっかりと行い、よりきめ細やかな学生管理を行うことによって、国家試験の合格率や就職率など高い教育実績とともに低退学率を実現しています。

学園主導で「大原カーボンオフセットプログラム」に取り組み、各校とも学生が主導となって地域活動やボランティア活動に参加できる環境を整えています。

(4) 法令等の遵守

本学園は、会計・法律の資格指導校である特色を生かし、新制度や規定の制定に積極的に取り組んでいます。

個人情報に関しては、個人情報保護管理者を置き、法令の遵守に努めるだけでなく、詳細な学内規定『個人情報取扱規則』を策定し、全ての個人情報の取り扱いには細心の注意を払っています。

本学園は、自己点検・自己評価の実施と公表を、今後も積極的に行っていきます。

学校法人名古屋大原学園

【名古屋】

大原簿記情報医療専門学校
大原法律公務員専門学校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校

【岐阜】

大原簿記医療観光専門学校 岐阜校
大原法律公務員専門学校 岐阜校

【津】

大原簿記医療観光専門学校 津校
大原法律公務員専門学校 津校

【浜松】

大原簿記情報医療専門学校 浜松校
大原法律公務員専門学校 浜松校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校 浜松校

【静岡】

大原簿記情報医療専門学校 静岡校
大原法律公務員専門学校 静岡校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校 静岡校

【沼津】

大原公務員医療観光専門学校 沼津校
大原介護福祉専門学校 沼津校

自己点検・自己評価総括表

作成者: 榊原義久

作成日: 平成29年4月30日

サンプル数(評価数値の分布合計): 9

(1). 教育理念・目標

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
②学校における職業教育の特色は明確になっているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
③社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	1	0	0
④学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
⑤各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	1	0	0

①課題

評価は、昨年度は「やや不適切」の評価があったが、ほぼ「適切」との評価に改善している。
特に課題となる項目はない。

昨年度は、③の項目で「やや不適切」との評価があったが、前々年度から実施されている「職場の基礎能力」向上に向けた取り組みが評価されている。

「④学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか」は、全員が「適切」との評価に改善されている。入学前の保護者説明会・入学式・入学後のガイダンス以外に保護者説明会を開催し、保護者に対し学園の教育理念・育成人材等を発信した成果であると思われる。

②今後の改善方策

昨年度の学校関係者評価委員会において「社会において必要とされる専門能力を身に付け、会社で継続的に働き、地域貢献できる学生の育成」との提言を頂いた。資格の合格や就職のみを優先するのではなく、社会が求める人材育成を目的とした「職場の基礎能力」向上の取り組みを行う。

また、保護者に対し学園の教育理念・目標を理解して頂く機会として、今年度も保護者説明会を実施する。

自己点検・自己評価総括表

③特記事項

岐阜校は、教育基本法の精神に則り、学校教育法に従い、企業において必要とされる専門能力を身に付けた人材の育成を目的とし、平成24年4月に開校。教育基本法に於いて「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができる」とあり、岐阜県(特に西濃地区)の若年層に「専門能力や一般常識能力」を身につけた人材の育成を目的としている。

具体的には、学園では年度単位で学園学校運営計画書を策定しており、その中で学園全体の教育目標として

①早期大人化教育:精神的・経済的な独立意識と社会やクラスの形成者意識の養成、

②学科の専門教育:資格試験や公務員試験に合格する能力と就職に必要な能力の養成

を掲げている。さらに教職員・学生・クラスの3者の能力を工夫活用し、健全な国民としての学生を育てることを教育方針として定めている。

全教職員は当該計画書を所持しており、毎月実施する教職員全体朝礼において教育目標の確認、および計画項目の進行状況を確認している。これによって教育目標・教育理念の教職員への浸透を図っている。なお本計画書は校長等により毎年見直しが行われ、毎年度末に名古屋大原学園全職員が集い、教育目標・教育理念を全教職員が確認している。

また、学生に対しては学園独自の学生手帳の活用や校長等の講話により、学園が目指す教育目標への理解を図っている。

学園は「資格の大原・就職の大原」として「変わらない価値のあるもの」(不易)を大切にしつつ、その時々々の社会のニーズに合わせ「変えていく必要があるもの」(流行)に的確かつ迅速に対応していくため、カリキュラム等の改善を毎年行っている。

自己点検・自己評価総括表

(2). 学校運営

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①目的等に沿った運営方針が策定されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
②運営方針に沿った事業計画が策定されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
③運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	2	0	0
④人事、給与に関する規程等は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	1	0	0
⑤教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	2	0	0
⑥業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	2	0	0
⑦教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	2	0	0

①課題

学校運営については「適切」「ほぼ適切」との評価である。

「③組織運営や意思決定機能、⑤教務、財務等の組織整備などの意思決定システム」は、学校運営計画書に明示されており、特に課題はない。

「⑥業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか」は、岐阜校の立地から特に近隣住民の方への配慮が肝要である。不適切の評価はないが、学生に対するコンプライアンスの意識向上を常に図ることが重要である。

「⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか」は、昨年度に新たな学生管理システムの導入ができなかったことが課題である。

②今後の改善方策

⑥については、地域清掃などのボランティア活動を通して倫理観・社会貢献を意識した取り組みを行っている。学園は、教育基本法において「国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた国民を育成する」とある。法令を遵守し高い倫理観を保持するかどうかは、学生が社会の一員であることを常に自覚させる必要であるとの認識に立ち、今年度も引き続き積極的な取り組みを行っていく。

また、教職員の個人情報管理等のコンプライアンスについては、教職員の法令順守の意識向上のため、毎年度行っており、今後も定期的な時期に実施する。

⑧については、今年度より新システムの導入が決定し、業務の効率化が図られる予定である。職員における新システム操作の習熟に努め、業務の効率化を図る。

自己点検・自己評価総括表

③特記事項

毎年、学園学校運営計画書が作成されている。計画書には運営方針・事業計画・組織図が明示されており、運営組織や意思決定機能についても明確化され、毎年度末において行われる職員全体会議において、全職員に対して事業計画等の説明がされている。
必要な規定に関しては、諸規則集が設けられ、関係法令の改正に伴い、そのつど改正を行っている。

学園では多くの個人情報を扱うため、個人情報保護法に基づく学園個人情報保護規則を整備し適正に取り扱っている。
今後も個人情報の管理、コンプライアンスには一層の注意を行う。

教育活動等に関しては学校自己点検評価として学校HPで公開されているが、学校関係者評価を通し情報公開を積極的に行っている。また、学校財務情報についても公表の場を設けている。

学生管理(成績管理、出欠管理など)や財務経理等の学内業務はコンピュータ化が進んでおり、効率的な業務遂行ができるよう工夫されている。

自己点検・自己評価総括表

(3). 教育活動

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
①教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
②教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
③学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	2	0	0
⑤関連分野の企業・関連施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	1	0	0
⑥関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	2	0	0
⑦授業評価の実施・評価体制はあるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	2	0	0
⑧職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	1	0	0
⑨成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
⑩資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
⑪人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	2	0	0
⑫関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	4	0	0
⑬関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研究や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	2	0	0
⑭職員の能力開発のための研修等が行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	2	0	0

自己点検・自己評価総括表

①課題

教育活動については、「適切」「ほぼ適切」との評価である。昨年度より「適切」が増加している。

「⑥関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか」の項目は、学校関係者評価委員会において指摘があった学生自身の参加意思向上のため、学校主体ではなく学生が自主的に参加する企業等を選択し、複数の企業に参加する学生もおり改善している。まだ不十分な学科があるため学校全体の取り組みが課題である。

「⑦授業評価の実施・評価体制はあるか」については、教職員全員が納得するシステムを確立が課題である。

「⑫関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか」は、前年度より「適切」が多く、改善している。関係業界から学生の実習発表の評価や意見を頂く機会を増やし取り組んだ成果と思われる。

「⑭職員の能力開発のための研修等が行われているか」は、岐阜校全職員が就職指導力の向上を目指す研修に参加していることが評価されている。

②今後の改善方策

前年度には「岐阜県インターンシップ推進協議会」を利用したインターンシップの推進を行った。平成29年度においても積極的に実践的な職業訓練を継続する。また、より実践的な職業訓練を行うため、一部学科では長期的な職業教育ができるよう協力企業と協議し、実行に移したいと考えている。

授業評価については、「職員用自己評価シート」の作成と年度末の役職者による評価面談を行う予定である。

前年度は、関係業界から学生の実習発表の評価や意見を頂く機会を増やし取り組んだ。今年度も継続して取り組む。

今年度から職員の能力開発のための新たな取り組みが予定されている。

③特記事項

教育目標として掲げた

(イ) 早期大人化教育:精神的・経済的な独立意識と社会やクラスの形成者意識の養成

(ロ) 学科の専門教育:資格試験や公務員試験に合格する能力と就職に必要な能力の養成
を実践するためのカリキュラムとなっている。

資格試験直前期には補講の実施により合格率向上を図っており、プロジェクターを使用したパワーポイントなど理解度を高めた授業を工夫している。また、学生に対しタブレットを配付し、情報端末の有効活用により資格合格や就職就職対策に使用できるよう推進している。また、各試験の難易度が高くカリキュラム以外での自己学習の慣習化を図るよう啓蒙が行われている。

進級・卒業に関しては学生に配布している「学生便欄」に進級・卒業基準明示し、厳密に審査判定している。

学園では、教職員の知識向上のための各種研修制度があり、毎年度末において表彰を行っている。また、学園職員の間人力を高めるための研修が定期的に開催され、多くの教職員が参加している。

昨年度から各学科ごとにより実践的な内容を取り入れたカリキュラムを実施している。資格重視型から実践重視型への移行を来年度も引き続き進める。

自己点検・自己評価総括表

(4). 学修成果

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①就職率の向上が図られているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
②資格取得率の向上が図られているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	1	0	0
③退学率の低減が図られているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	2	0	0
④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	5	1	0
⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	1	0	0

①課題

学習成果については、昨年度より「適切」であるとの評価が多くなっているが、一項目で「やや不適切」との評価がある。

「④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」について「やや不適切」との評価である。

卒業生に対しアンケート調査を実施することが課題であったが、実施できなかったことが要因である。在学生の就職活動に指導にも役立てることができるため、早期実施が課題である。

また、退学者数は前年度より減少しており、「ほぼ適切」から「適切」との評価に改善されている。

②今後の改善方策

卒業生の活躍・評価の把握については、学校関係者評価委員会においても改善の提言がされていたが、アンケート案の作成に留まっている。また、校長等による企業訪問も僅かしか行われていないため、アンケート調査と併せ、今年度の実施を確実に挙げる。アンケート調査は、在校生に対し社会人としての心構え・取り組み姿勢・学生の間にもやるべきことなどを発信する貴重な資料であるとともに、卒業生の社会的な活躍を把握する術となる。

また、退学者防止については、前年に改善した「保護者との定期的な連絡」が効果として表れており今後も引き続き実行する。

③特記事項

自己点検・自己評価総括表

就職指導では、担任と学生との間で企業研究・自己考察・履歴書の書き方・自己PR・志望動機の内容など十分な就職対策を実施し、就職サポート担当の支援を受けて就職率の向上を図っている。また、税理士科、医療事務科においてはOB・OGによる就職講演を実施し、学生の自主的な就職活動を促している。

資格取得については、税理士試験、診療報酬請求事務試験など難易度の高い試験においても成果を挙げている。担当教職員による指導の賜物であるが、指導時間が長くなるなど教職員の仕事量を配慮する必要がある。そのためには、学生手帳を利用した自己管理による自己学習が重要となる。

教職員が学生個々の状況を把握し、必要に応じて勉学や進路について早期に面談を行うことが肝要である。やむを得ない理由での退学者も存在するため、可能な限り保護者と学生本人、担任(必要に応じて校長または部署責任者出席)が面接を実施して、退学防止に取り組んでいる。また、奨学生制度など経済的な支援制度を行っている。

学費分納制度については、徐々に利用者が増加し、経済的事由による退学者防止に効果を上げている。

卒業年次には、内定先企業の職種に応じたカリキュラムを行い、入社2年目レベルの学生を育成することを行っている。このカリキュラムは、理解しているのではなく、実践できることを目的としている。

自己点検・自己評価総括表

(5). 学生支援

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①進路・就職に関する支援体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	2	0	0
②学生相談に関する体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	2	0	0
③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
④学生の健康管理を担う組織体制はあるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	2	0	0
⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	1	0	0
⑥学生の生活環境への支援は行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
⑦保護者と適切に連携しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	1	0	0
⑧卒業生への支援体制はあるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	4	0	0
⑨社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
⑩高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	1	0	0

①課題

学生支援に対しては、昨年度より「適切」の割合が高くなっており改善されている。

「⑥学生の生活環境への支援」については、昨年度から新たな支援制度が実施され、支援強化を図った。この支援制度について、一層の周知ができるかが課題となっている。

「⑦保護者との連携」では、昨年度の評価では「ほぼ適切」との評価が過半数を占めていたが、課題であった「保護者会の開催」を実施し、連携強化が図られたことが改善と評価されている。ただし、参加者がまだ少ないため、今年度はどのように保護者会への参加を促すかが課題である。

「⑧卒業生に対する支援体制」として、学園卒業後、専門課程附帯教育として社会人講座の受講を希望する場合には、一定の支援制度があり、スキルアップを目指す卒業生のバックアップを行っており、特に課題はない。

自己点検・自己評価総括表

②今後の改善方策

⑥については、「支援制度専用パンフレット」の作成などの周知強化を図るよう取り組む。

⑦保護者との連携は、保護者に対するな電話や保護者説明会の実施など継続して実施をする。

⑩高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているかについては、高校からの支援要請については積極的に行っており、今後も継続して取り組む。

③特記事項

入学時には奨学生制度、低利の教育資金融資制度が利用できる。また学費納入方法として従来の一括納入に加えて分割納入制度がある。

クラス担任制度を採用しており、担任と学生の信頼関係に基づき学習相談、進路相談、就職相談が行われている。また学科長や校長も担任をサポートし、学校を挙げた指導体制を構築している。

進路活動に関しては、学校に寄せられる求人情報は名古屋に本部を置く就職サポート室が一元管理し、個別に学生面談を実施し本人の希望に沿うべく紹介を行っている。求人情報はファイリングした上でキャリアサポートセンター室にて自由に閲覧できるほか、企業データベースに登録されるので学内ネットワーク上でも検索可能である。また、担任以外に就職サポート担当者が、定期的に就職ガイダンスや模擬面接の実施等、具体的なサポートを行っている。卒業年次からは内定企業の職種別にクラス編成を行い、実務教育を主体とした入社前教育を実施している。

健康管理については、学業に支障が出ないように規則正しい日常生活の啓蒙を行うとともに、医療機関と提携して早期の治療等が可能となる体制を築いている。

課外活動については、本気モードで楽しむ「キャンパスライフ」として、毎年菅平研修旅行、遠足、スポーツフェスティバル、卒業研修旅行を行っている。平成27年度より野球部・バスケット部等のクラブ活動をスタートさせる。

学生の生活習慣が悪い場合(遅刻・欠席)には、直ちに保護者と連絡し、家庭での状況や学園生活面の意見交換を行い、学生の現状把握に努めている。

学費分納制度については、徐々に利用者が増加し、経済的事由による退学者防止に効果を上げている。

学園では、高校在生学生に対し各種検定前において対策講座を行うなど、高校からの要望にできる限り応えている。また、OB・OG講演会を開催し、企業が求める人材・検定試験対策のための体験談など、幅広い内容の講演を実施し、学生支援を行っている。

自己点検・自己評価総括表

(6). 教育環境

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	1	0	0
③防災に対する体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	1	0	0

①課題

教育環境については、ほぼ「適切」との評価となり、昨年度より改善がされている。

①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているかは、昨年度において一部学科の設備増があり、全て「適切」との改善がされている。

②インターンシップは、昨年度の反省及び課題から学生の自主的な参加意識の向上を目指し、インターンシップ受入先企業数の増加・実施が評価に結び付いている。今後は、カリキュラムとの調整もあるが、ある程度長期間のインターンシップができないかを模索したいと考えている。

また、海外研修については、昨年度の学校関係者評価委員会におい実施要望が高い項目であったが、昨年度実施し一定の教育成果があり、適切であると評価されている。

③防災に対する体制の整備については、昨年度に引き続き「ぎふ・シェイクアウト」に登録・参加、救命講習においてAEDの使用の実習など防災に関する意識付けを積極的に行ったことが評価された。

②今後の改善方策

インターンシップについては、今後も学生の参加意識の向上のため、学生の自主的な行動を学園としてバックアップしていく。また、ホテル・ウェディング学科については、より実践的な実習を行うため、長期間の実施ができないかを検討する。

海外研修は、異文化体験や異文化理解をするうえで有用である。安全上の問題もあり実施には慎重に対処しなければならないが、できる限り実施を継続したいと考えている。

防災対策については、来年度も継続して実施していく。また、教職員の防災意識の向上も引き続き行う。

自己点検・自己評価総括表

③特記事項

専修学校設置基準に照らして講義室、実習室とも十分な面積と必要数を満たしている。廊下、ロビーも一定の広さがあり、椅子とテーブルを設置し当該場所での学習も可能である。自習室も確保しており、学生が学習する環境は整えられている。

また、実習設備として「PC実習室」「医療実習室」「バンケットルーム」「フィッティングルーム」など各学科の必要に応じた教育用機器備品を揃えている。医療実習室は、より視聴的な講義を実施するため「電子黒板」を設置している。講義室、実習室とも授業後は施錠することを基本としているが、学生の申し出による授業後使用も可能である。

教室にはパワーポイントや画像を映すためのプロジェクターが備わっている。また、校内全フロアにWi-Fiが完備され、学生に配付するタブレットを使用したインターネット接続も可能となっている。

保健室は整備されており、一定の医薬品も常備している。図書室は独立した部屋は整備されていないが、各教室や廊下に掲示板を備え付け、ロビーに新聞や大型の書籍箱を設け、書籍の設置などを行い学生に情報を提供している。

研修施設として長野県菅平と静岡県富士宮に研修施設があり、大原学園グループ校が利用することができる。入学年次の夏には研修施設を利用した研修旅行があり、学生間のコミュニケーションを図る研修となっている。

インターンシップは、税理士・企業会計科は企業や会計事務所において、医療事務科は病院実習として、ホテル・ウェディング科は関連する業界での実施を行っている。

自己点検・自己評価総括表

(7). 学生の受入れ募集

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①学生募集活動は、適正に行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
③学納金は妥当なものとなっているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0

①課題

学生の受入れ募集については、全て「適切」と評価され、昨年度の「ほぼ適切」の評価が無くなり、改善がされている。

①学生募集活動は、学園の統一的な情報発信方法を協議する委員会による具体的な指針は見送られたため、岐阜校における統一的な指針を明確にし、早急に対処できる方針を協議したことが評価されている。

②教育成果については、高校訪問や学校HP・SNSにより、タイムリーな提供を今後も継続する。

③学納金は課題はないが、家庭における負担の軽減策として昨年度から学生に対する支援制度を充実させた成果が評価されていると思われる。

②今後の改善方策

学生募集活動は、オープンキャンパスに参加した高校生等に大原や各学科の特長がアピールできているかどうかを検証するため、職員同士が内容確認する模擬説明会を実施し、説明内容の統一化を図った。また、今後は定期的な検証を行いアピールポイントを職員間で共有する。

教育成果については、高校訪問先を進路指導だけでなく、簿記教科実施高校との関係強化など高校とのパイプの強化に努める。

学納金に対しては問題はないが、通学にかかる交通費など学納金以外の負担軽減をを図るため、前年度入学生より新たな支援制度を実施している。この支援制度の周知徹底を図り、学生に対する学園のバックアップ体制の強化をアピールしていく。

③特記事項

学生募集のための資料は、募集案内・要綱などをすべてを1冊にまとめられている。学校の基本情報はもちろん、学科ごとのカリキュラム、資格合格実績、就職実績、学内イベントなどの情報並びに学校説明会や体験入学会の開催日程を掲載している。また学費や入学手続き方法を明記した募集要項も綴じ込んである。入学者選抜については、出願後遅滞なく実施し、書類選考及び必要に応じ責任者による面接を実施している。学校説明会等に未参加の学生の志願書が提出された場合には、別途学園の教育方針を説明した上で再度の意思確認をすることにより志願学生とのミスマッチがないようにしている。

岐阜校の入学者数は、一定数を確保している。高校卒業後すぐの入学だけでなく、短期大学や大学の中途退学者、卒業者からの受け入れも行っており、また企業退職者の入学もある。

学生に対する経済的支援策としては、奨学生制度や分納制度を整備している。特に分納制度は利用者が増加傾向となっている。また、岐阜校独自の支援制度も行っている。

自己点検・自己評価総括表

(8). 財務

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
③財務について会計監査が適切に行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
④財務情報公開の体制整備はできているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0

①課題

財務についての評価は、昨年度に続き全員が「適切」となっている。

財務基盤の安定を図るためには、一定数の入学者を確保できるかが課題となる。

②今後の改善方策

18歳人口の減少するなか一定数の入学者を確保するためには、社会が求める人材育成や学生のニーズ対応した教育を探求する必要がある。そのため、学園では時代に対応する企画力の強化、教職員個々の業務力の向上に向けた取り組みを行う。

③特記事項

財務については、入学後に寄付金や学債をお願いすることは一切なく、学園は借入金のない健全な財務状態となっている。

理事会・評議員会において、予算・収支計画の立案及び承認が適切に行われ、財務に関する会計監査及び税務監査は適切に行われている。

財務情報については「財産目録等の閲覧について」の規程を整備し、財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書及び監査報告書は、学校HPや閲覧による情報公開の場を設けている。

自己点検・自己評価総括表

(9). 法令等の遵守

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	0	0	0
②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	2	0	0
③自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	1	0	0
④自己評価結果を公開しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	1	0	0

①課題

②③④は、前年は「ほぼ適切」の評価が過半であったが、「適切」との評価が大半となっており改善がされている。

①法令、専修学校設置基準等に従った適正な運営がなされており、特に課題はない。

②個人情報に関しては、個人情報保護法に基づく学園個人情報保護規則を整備し適正に取り扱いがされている。また、朝礼時において職員間で個人情報保護規則の内容を確認しており、特に問題はない。今後も個人情報の取扱い上の注意など知識定着を図る必要がある。

③自己評価の課題点の改善については、校長を中心とした改善を実施しており、特に問題はない。

②今後の改善方策

定期的な研修により、個人情報の管理・運営上におけるリスクを職員が理解し、今後も個人情報の取扱いに注意するよう継続努める。

③自己評価における課題は、校長の指示による改善提案があり、改善に向けた方策が見出せるようにしている。今後も改善の指示と行動が伴うようにする。

③特記事項

「百年の大事業に携わる心意気をもって、己の品格と学識を鍛え、不徳を自覚した上で己の情熱を若者に注ぐ」ことを教育者の使命と捉え、教職員各々がその教育使命をしっかりと受け止めて誇りと情熱をもって教育に当たる」ことを学園の基本運営方針としている。その教育使命は、当然各法令の遵守をすることが前提となる。

学園では特に多くの個人情報を扱うため、個人情報保護法に基づく学園個人情報保護規則を整備し適正に取り扱い、個人情報の管理、コンプライアンスには今後も一層の注意をしていく。

教育活動等に関しては学校自己点検評価として学校HPにて公開されている。

自己点検・自己評価総括表

(10). 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	3	0	0
②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	2	0	0
③地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	3	0	0

①課題

昨年度は「やや不適切」の評価もあったが、全項目につき「適切」「ほぼ適切」との評価である。また、「ほぼ適切」が半減し、「適切」との評価へ改善をしており、特に課題はない。

①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献については、学園の「人的資源」「物的資源」の提供を行い、社会貢献・地域貢献を引き続き行っており、特に課題はない。今後も学園ができる範囲内で継続して貢献を行う。

②学生のボランティア活動については、昨年度の学園運営計画書に「年間最低1回の実施」との明記通りボランティアが実施され、特に課題はない。

②今後の改善方策

①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献については、高校等における資格取得支援のための教職員の派遣や学園内における支援講座の実施、廃棄教材等を自治会の資源ゴミとしての提供、教室の貸出しを続けている。また、今後も出来る範囲内で取り組む。

②ボランティアについては、卒業対象者全員が学校周辺の清掃活動を行った。また、今年度は、進級生全員による岐阜清流マラソンのボランティアに参加予定であり、全学生のボランティア活動を学園が奨励している。ボランティア活動による社会形成者意識の向上と学校関係者以外の方との協調性、コミュニケーション能力の向上効果に期待したい。

③特記事項

引き続き、商業系高校からの依頼による簿記講習等において担当職員が高校に出向き、高校生に対し講習を行っている。高校の先生方からも非常に好評であり、地元高校生に対する資格取得のバックアップを行っている。地元地区・自治会に対して、毎月1回資源回収として学園からの廃棄教材・段ボールなどを提供し、地元自治会の地域活動に役立っている。

学園は、社会人や大学生の方に対し、平日夜間や土曜日において専門課程が使用しない時間を利用した附帯教育を実施しており、資格取得等のスキルアップを図るサポートしている。また、学校施設は、土曜日・日曜日において各種資格試験会場等として教室を貸し出しを行っている。

岐阜校は名古屋校とサテライトシステムを導入しており、名古屋校で行われる各種セミナー・実務家講演会などを岐阜校から視聴できるようになっている。